

合類類書

法源治國目錄表紙付之
 國分法源家法紀列地
 或若按地凡世九子國
 雜知三族國子知二流
 古來奧書 口通

下

古今
類書

萬寶全書

十二





古今活畫合類大全 目錄

一 紀別 八條 一 播磨 安教 一 丹波 長末
 一 遠河 西田 一 三河 二 落
 一 志江 里末 一 武藏 四 落 一 伴美 一人
 一 下野 一人 一 奥列 落 一 越前 三 落
 一 越中 義弘 一 加賀 落 一 石見 落
 一 出雲 及永 一 伯耆 大京 一 美濃 一人
 一 信馬 一人 一 因幡 一人 一 周防 落
 一 長門 友女 一 安藝 三人 一 阿波 氏吉
 一 淡路 業宗 一 伊豫 一人 一 土佐 一人
 一 淡路 一人 一 信濃 一人 一 越後 二人
 一 筑前 仲淡 一 筑後 三 池 一 肥後 三 池
 一 肥前 流 一 肥後 菊池 一 肥前 流
 一 薩摩 波平 一 大隅 一人 一 鹿野 一人
 一 難波 真幸 貞浩 不 勅 國
 一 又山城 入和 倭宗 一 國不知 辰戶
 一 倭中 一代 能治 跡 堀

△紀傳國入實系

包貞。揭法原和列
 本宗。紀文振中
 仲美。本宗之弟也
 實德。入京
 仲美。下之上
 實德。入京

○仲真。
 角ニ小肉あり 尻垂遠
 實德。實 延 作

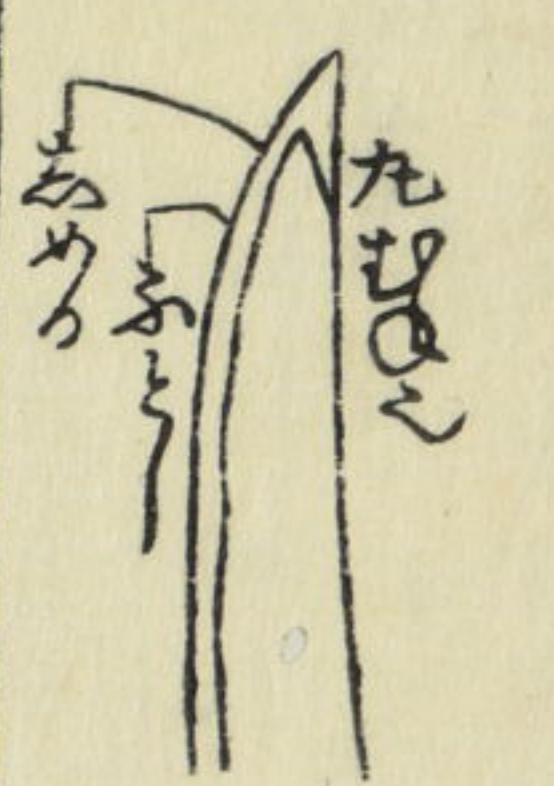
素實。上入 麻景 實
 角ニ小肉あり
 換角 尻日

中國。系 系 系
 棟肉 角ニ肉



九ノ中心セシム





九ひき
襦袢同きしゆの平の
裾ひきのきりあり
肌縫ひの板ふき
いもる永のやう
て沸くはれま
てお沸きれり

播磨四物之系

安頼

安頼。お大和をりし裾平表目貫穴
心小ゆて裾帯し心えん裾方あり
至毒一又トと切指を帯と異す

角四

角四。安頼子と父と同時小裾列み下
向す裾ハ長角四と打指打不
父と同時三条宗を帯と同時。一条院
長保法より後一条院寛仁時より六
十歳と成生す

包重

包重。安頼子時代又ニ
同号あり太丈

重包

包重子

家時

家時。安頼子号指太丈
父と同時裾列

近室

包重子

助常

包重子

行俊

行俊。重包中子。後一条院万壽時
より後冷泉院天喜時より成る

國貞

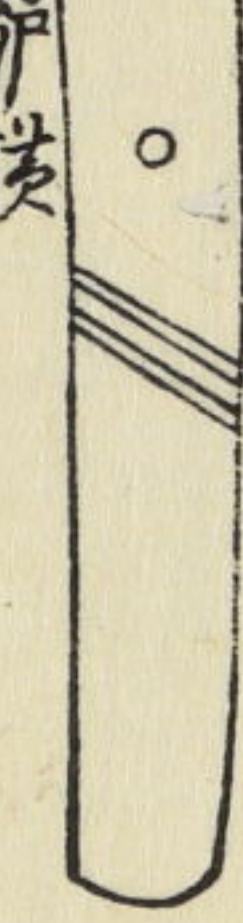
行俊子御模
存康平時迄

包吉

國貞子

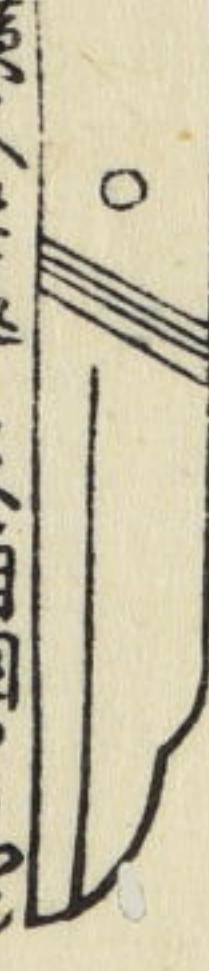
一 一条院永色はより長保法より後治
たり何もの一教心乃深河のた刀備
せりく福ひきく度一房中切流川
まろ下子礼と焼く古伎安成小似り
安頼 中 番系号よりあり

安頼



角ニ御模
志々の指守と成

安頼



角ニ御模又至遠 長角四と成

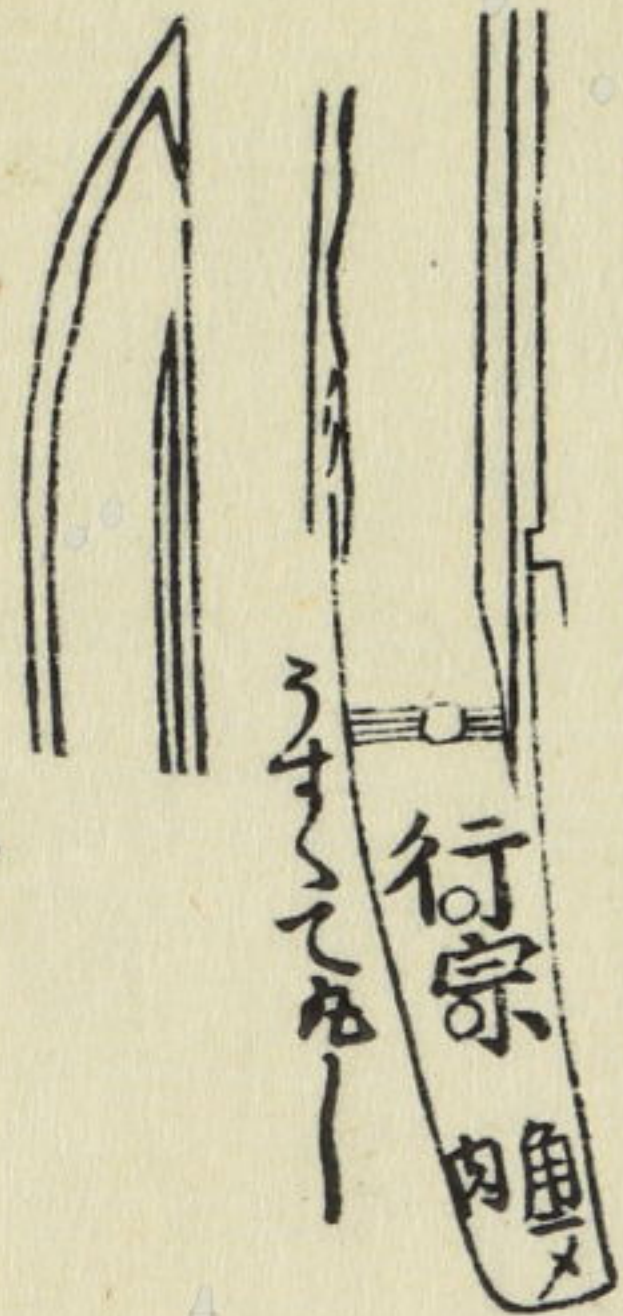
包重 能る下と 乃乃裾大和物小似
りさりかろ又伝房小も似りゆ
包重と小も似り古は播磨小門
包吉と成る

包重



家村 下上 系号小所謂家時
包 一条院永色乃法播平
完業教人指太丈と号と成る
裾形押しと成る

行宗 コキム子 公孫系忌不見。云無。自
 あり地を白めにし。又妻めけりて
 足り併ふ。後日此内に産む。女
 仍りりい女位もあつても存く他
 地望く又い他かえん。講の心登る
 子似たり。並又庶孫中。わしとら
 及縁者。いりり友は小井の似り
 同時代乃ち之細指する極もそくふ
 之中より三四分もあり



國吉 系忌不見



光依 下之上系忌之外。後光嚴院の
 字貞治。法橋麻呂國任人とき
 一時乃 下之上系忌之外。後堀河院の
 貞意の法橋麻呂國任人とき

角にそひりつと面



一 忠行先書。難於三入。國と云
 附乃の流法。國系二人も云。一代
 治の教も。後列うりの傳小云。乃
 て右に流法に附去す
 一 系長 下上 系忌小これ。後醍醐
 天皇元孫乃法橋。必任人小能治也

舟波物之系忌

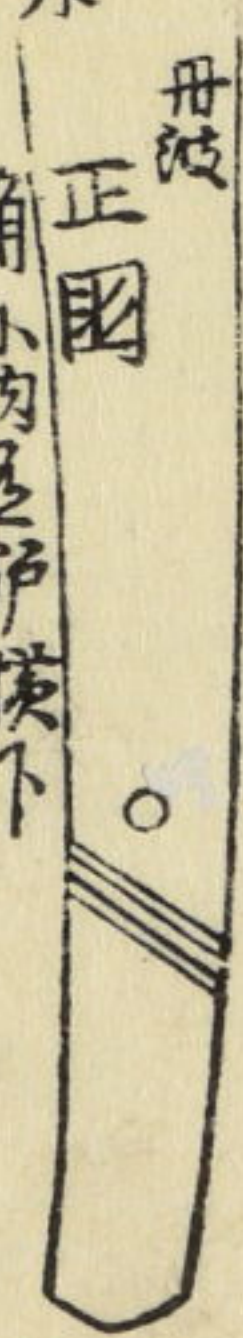
長宗。依伯長系。打
 幸貞。長末子

末國俊。系孫系
 小の系位

國光。國俊子
 いふも。諸
 あり。毛心
 末子打

女子 國俊 二字落

一 心國



系忌之外 角小肉五平横下
 卷一國俊平小同路立それ光あり

駿河國鴨田之系忌

フルカノクニ
 角小肉五平横下

△富次 家安 家後 義助

助宗 廣助 家次 女子

義助 義助

一 義助 此為松内外へ移り歸て初光の孫
小三之丞と云ふ又其の孫世に又せんは孫小
三之丞の孫

存しあり

○義助作

角久もすすまらも其の孫
孫いざりたる也

一 助宗

後奈良院
年号也

不金也

○助宗作

初少撰下也

天文二十二年十二月吉日

一 家後

後河本今報治拒本後前報治也

一 家次

同家後也其父と曰内小後河下
系今川実口先祖也其父大切也其父也

△近江報治之分 北系也

一 光也

中 花室院也其父也其父也

江州戸津末と号山城國末國後
り子也其父也紀年強於忠許也其
後より一國後系也乃下小出也

一 玉

下上 安海天皇乃其父也其父乃

比江州末多末部と号粟田口系當
時

一 俊長

後光嚴院也其父也其父也

江州末多末部乃其父也其父也其父也

一 長也

江州丹波俊長の延文元年更す

角三少撰下胖あり下中心の云々最近の曲尺三尺
其の云々

△三河國報治之分 北系也

一 國盛

三河国信人中系也其父也

一 國盛

三河国信行系也其父也其父也

一 貞吉

貞吉は信行也

角三少撰下胖あり

○親王寺吉十

棟角ニ小肉あり戸口
某等ニ内住ニ國銀一角

△トウキ志江國銀治ノ分ニ北東也

一 國東ノ下ノ後香野院ノ寺ノ志江玉
任人國東ノ寺ノ打ノ後次ノ寺ノ打ノ三十三ノ家
乃ノ以ノ平ノ安ノ城ノ小ノ位ノす一代ノ報ノ治

棟角ニ小肉あり戸口
官決度
空吹

一 友行トモユキ 一 友則トモノリ 一 友安トモやす
一 恒来トコキ 一 友吉トモヨシ 一 友徳トモトク
一 伴平トモヘイ 一 友安トモやす 一 友行トモユキ

△武義國銀治ノ分ニ北東也

一 照重テラシゲ 別傳ノ方ノ一

是之角ノ下ノ小肉あり
是之角ノ下ノ八角
武洲住照重
武洲住照重

一 國房クニノボ 國房



一 為吉タケヨシ 武義國銀人ノ忠ノ也ノ也ノ

一 正宗マサムネ 武義國ノ二ノ代ノ國ノ銀ノ治ノ

△伴トモカド武國銀治

一 宗近ムネチカ 忠ノ口ノ傳ノ方ノ一

△下野シモノ國銀治

一 奢威シヤケイ 忠ノつノらノめノりノ先ノ丸ノ一

△貞列マコト物ノ之ノ某ノ家ノ

寶壽ホウジュ 寶壽ホウジュ
行ノ横ノ 行ノ横ノ

女子 寶壽

秀安 行先

基高

寶壽

ほ小松流
赤坂より
二百六十年
及

角の内
寶壽

此穴より西より三つありて申す
三つ中へ一人多く
五代目迄永正長のはりあり

かき及ぶるや地角の区
こくも
やびあつく中ひきあり

執 散教。寶壽

持角ニ小肉あり抄年二日 角

祖又 出好祖又。寶壽時

持角ニ小肉あり抄年二日 角
持角ニ小肉あり抄年二日 角
持角ニ小肉あり抄年二日 角

○宝見壽

出好玉五郎平泉ノ後人文殊子
孫三人孫ハ後後公孫江りと
去段あり

△同奥列物之系

安房 〇後三行を
とあり

森房 〇森終

女子

友長 〇森終

彌彌 〇安房孫之
時代

師系

雄安 〇後三行を
元暦以

世安 〇同上

内峯

近菊 〇同上

王有

丸房

鬼之丸 月山

伏見

一行堂 上 安房より後の名は白河
院景保乃法奥列乃後人森終と
一友長 〇森終

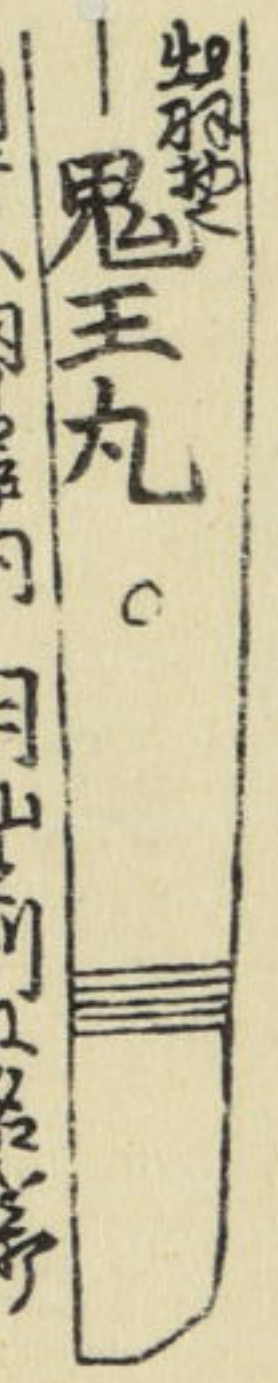
〇奥列森草支本

持九指の平株又小肉ありは様下切

一月山下止 鬼之丸を打父の
色月山下止と申すは様下止と申す

乃指しは類二代も但一是の物たり
長の者大いなるもあつりは月山の
よき乃類も乃の松波平初安を
あつりいふもた

物 あつりいふもた
月山 角ニ小内ありしき 本たつた
度興 角ニこの口 切 極つて



鬼王丸 角ニ小内ありしき 月山 度興 角ニこの口

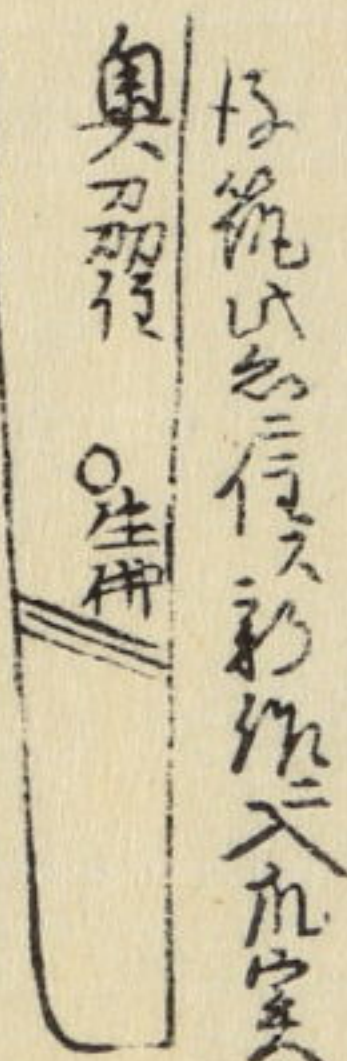
森宗 角ニ小内ありしき 月山 度興 角ニこの口



奥州津住森宗 角ニ小内ありしき 月山 度興 角ニこの口

生佛 角ニ小内ありしき 月山 度興 角ニこの口

故小籠前持 角ニ小内ありしき 月山 度興 角ニこの口



奥州津住森宗 角ニ小内ありしき 月山 度興 角ニこの口



奥州津住森宗 角ニ小内ありしき 月山 度興 角ニこの口

文壽 角ニ小内ありしき 月山 度興 角ニこの口

上 角ニ小内ありしき 月山 度興 角ニこの口

世安 角ニ小内ありしき 月山 度興 角ニこの口

中 角ニ小内ありしき 月山 度興 角ニこの口

世安と同時代なり
 一 飯備 中之上 右系号乃外之。一系流
 直之承之乃以奥州の住人
 右安房の系号飯備と世のあはれ
 しく世安と同一の因流なり

△越前物之系号

一 宗光

たむを村
作持

威重

まをの
作持一
名成打

重國

宗光の子
河横

女子

國重

重國孫
長清東住

△此國物之系号は以上よりて定まる大
 新方より分派ゆゑにあり
 一 宗光 ○光の流は之を傳へて

國名

越前國大津村宗光

角

角内あり重遠 曆十三百十月廿七日

日 越前國住左兵衛宗光

角内あり清月 乙亥三月廿五日

威重

角内あり

越前守重

一 越前敦賀住威重作

角内あり河内重遠

角

一 國安 下之上 系号
 系号と号子代傳へて云々の傳
 ひろく云々 重女傳く唐紙傳く或の
 三株或の丸孫小伝る 報括目して地
 之白の伝 報とこれより地小
 孫の伝 傳は之 重女或の小乳必伝
 傳傳も云 孫小傳云と傳云云 刀ハ
 中れ之 孫ハ來國安と打國乃字傳へ
 ひろく 孫ハ角 一編云 重女或の
 そろろ云 ひろく 伝ハ又傳らるる 傳
 る伝 一編云 重女或の

肉ハハサ丸

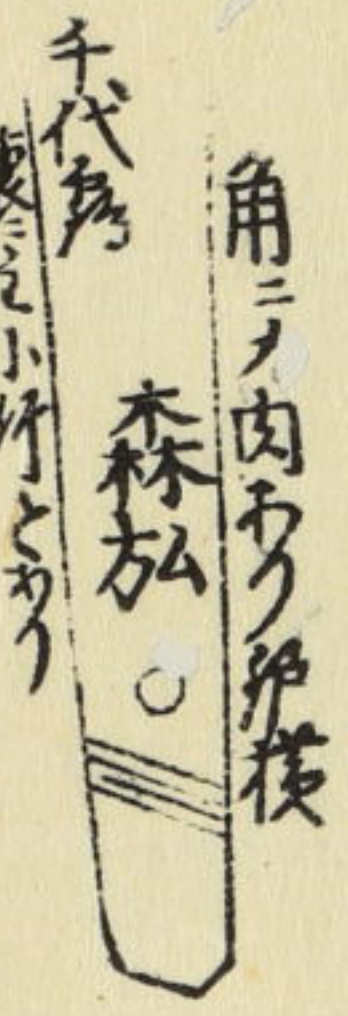
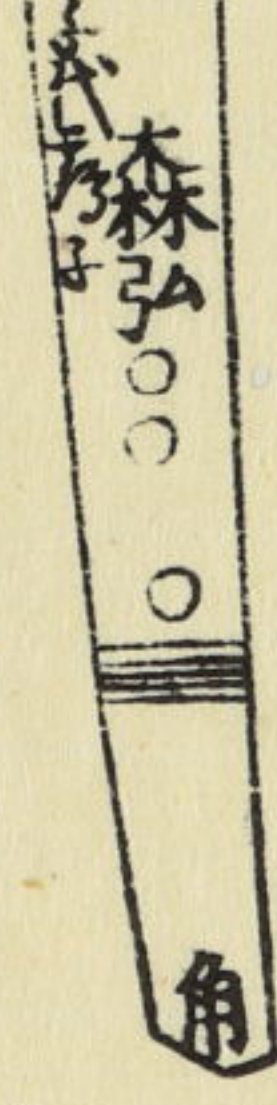
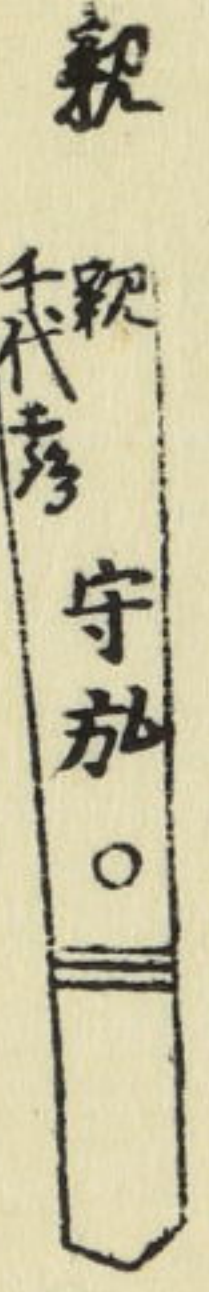
○來國安

是より云
少き之

金書 卷之四

「守弘」下之上
「守弘」下之上
「守弘」下之上
「守弘」下之上
「守弘」下之上

守弘 下之上
右系弘之介 國安子
後光嚴院流字 弘乃以哉 弘乃以哉
小梯 弘乃以哉 弘乃以哉
弘乃以哉 弘乃以哉 弘乃以哉
弘乃以哉 弘乃以哉 弘乃以哉



△紙中物之系弘

義弘 義弘 義弘 義弘 義弘

義真 義真 義真 義真 義真

義度 義度 義度 義度 義度

為次 為次 為次 為次 為次

△右系弘紙中物之系弘
和國光大和國字弘乃以哉弘乃以哉
弘乃以哉弘乃以哉弘乃以哉弘乃以哉

一義弘と 光嚴院建武紙中弘松
倉卿と号た刀の系弘乃以哉弘乃以哉

弘乃以哉弘乃以哉弘乃以哉弘乃以哉
弘乃以哉弘乃以哉弘乃以哉弘乃以哉

弘乃以哉弘乃以哉弘乃以哉弘乃以哉
弘乃以哉弘乃以哉弘乃以哉弘乃以哉

弘乃以哉弘乃以哉弘乃以哉弘乃以哉
弘乃以哉弘乃以哉弘乃以哉弘乃以哉

弘乃以哉弘乃以哉弘乃以哉弘乃以哉
弘乃以哉弘乃以哉弘乃以哉弘乃以哉

弘乃以哉弘乃以哉弘乃以哉弘乃以哉
弘乃以哉弘乃以哉弘乃以哉弘乃以哉

さうらやあしめいしは他いれを流ら
ふきりりてあふ報之忠乃ちた刀の
正宗乃とく中々持と角ゆき但利
以さつて横刀乃を流くことれらり乃
忠のまゝさふこれぬやう中々横刀
持角持乃流も平同あた刀の流も刀
同あては他いぬを流く和通倉中流
あてく義廣と打さる流倉御と号す
後醍醐天皇元應乃以中ヒく号り

父。義廣

系図の
義弘と号す
義廣と号す
やうり考
也

叔倉佐。義弘

角ニ小肉わり流直遠

江

江越中叔倉佐人義弘打流直遠
流直遠乃義廣 五郎入たが才子に
叔子越中二佐

一 則重 中 後醍醐天皇はさう元應法
又云光厳院流直遠流直遠の法越中國作

伯乃任人ときく流直遠と号すた刀の
好寸あふ及事流直遠くたさるして
唐乃の流直遠の報後同あてたのやう
あつて不同流直遠たれも及さるるゆゆに
地色い流直遠の流直遠と号す流直遠
くこと流直遠の義弘が才子もはた刀の
流直遠せが流直遠の流直遠と号す流直遠の
どくのがらも義弘と号す流直遠と号す
才子と号す流直遠と号す流直遠と号す
ぬりた流直遠と号す流直遠と号す流直遠と号す
とそく流直遠と号す流直遠と号す流直遠と号す
そ忠えん山形と号す流直遠と号す流直遠と号す
刀小流直遠と号す流直遠と号す流直遠と号す
同利流直遠と号す流直遠と号す流直遠と号す
佐自則重と号す流直遠と号す流直遠と号す
又云板田乃流直遠と号す流直遠と号す流直遠と号す
越義弘が流直遠と号す流直遠と号す流直遠と号す

越中義弘親
則重



録事 越中 加賀 石川 丹波 備前 備後 美濃 信濃 上野 下野 武蔵 相模 甲斐 信濃 越前 越中 加賀 石川 丹波 備前 備後 美濃 信濃 上野 下野 武蔵 相模 甲斐 信濃

角ニメ伊五邊
則重 角

越中国掃負郡御膳佳佐作則重

角ニメ伊五邊 志替三年七月日

越中御婦負郡所服佐佐作

若衣 衣 火打 小刀 小刀

則重

板角 角 小刀 小刀

一越中国御婦負郡所服佐佐作 若衣 衣 火打 小刀 小刀

一重四 越中御婦負郡所服佐佐作

系必乃外

角ニメ小内 伊五邊

越中則重

重四

角

角ニメ伊五邊 小内 伊五邊

重四

角ニメ伊五邊 角

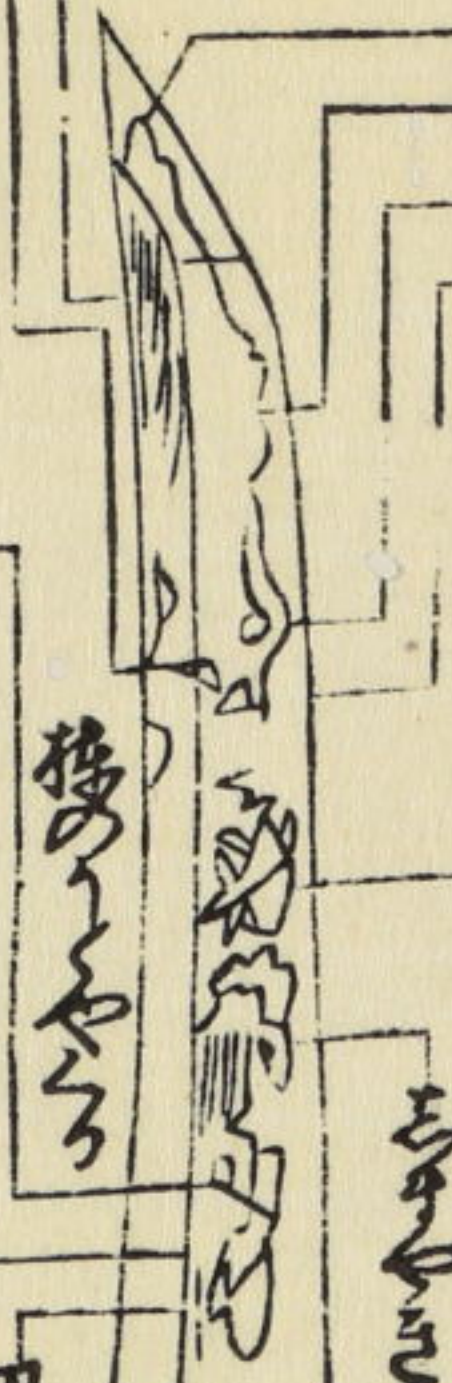
一為緒

義弘子 系必乃外

タメツ

老の尻馬 義弘

扇又之但おんきて 扇又之



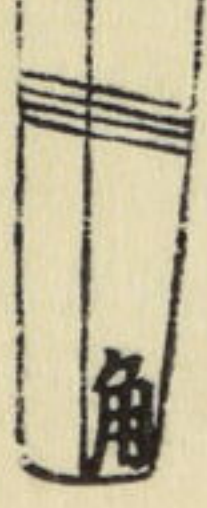
まらちて 扇又之 扇又之 扇又之

刀のそせ ねうま ねうま

角ニメ伊五邊 小内 伊五邊

一秤之空 系必乃外

秤之空



角ニメ小内 伊五邊

一 信長 系外之

山村信長 信長。角又肉有り伊直送

一 正信 系外之

信四 正信 正信

正信子 正信作 角又河直送 山村云正信

一 友次 系外之 字之

友次 友次。

一 國光 下之上 後醍醐天皇御宇 元應之法皇中國住人宇津坂公 とき、系外之

△加賀國藤崎之系外

真素 系光 真素子 伊模之

友重 真素子 伊模 友重 二代目

行光 真素子 伊模 友重 三代目

女子 家次

勝家 同族三代 信長 伊模 柏之

一 真素 最傳元祖之。後光成流傳 系滿將軍乃治世應安比とき

角又河直 賀列往又原真景

大永平 八月日

系光 角又河直下 真景子 賀川 景光

友重 下之上 又真と時代女及之加列友 徳住人國信より子し之高の所よりり よりく福せり一地を去くよりあ之妻 又二重更之礼又ハ是ありの之 乃やり又之又之又之又之又之 一 同族二代 是 賀列往又原真景 是方及の他ハ信長一文宗次より之 又切之り之ハ者模あり 取考同友重 及醍醐天皇元應安比ときより之

大又真系已... 乃... 乙卯... 甲寅... 乙卯... 丙辰... 丁巳... 戊午... 己未... 庚申... 辛酉... 壬戌... 癸亥... 十一...

藤嶋友重



藤嶋友重
角三ノ...

藤嶋
角三ノ...

藤嶋友重
角三ノ...

一行光
角三ノ...

布多
一行光

一行光

一家政
藤原家政

石見物之系

直徳
...

貞徳
...

守利
...

頼徳
...

末徳
...

行政
...

真元

女子

次弘

行久

録書

直徳

直徳作

石列 角三ノ中車込

吉地作 印

貞徳

高津位 貞徳

角三ノ中車込

守利

守利

真元

真元

末継

石州長濱 佳人末継

右刀の出来振野器系家の傳云

△出雲四道永傳系云

雲上

柱長東射と号 彦高はく生於出雲 云々云々 依あり云々 城あり 伊直委

登則

角三ノ中車込 及同内代同 角三ノ中車込

永則

登則子出雲 依もい一執同あり 角三ノ中車込

吉則

角三ノ中車込

吉則

永則子

清則

吉則子

公則

登則子 依もい一執同あり

則貞

吉則子

清則

清則子

秀則

則貞子

直貞

清則子

下之上

吉則一 右刀の出来振野器系家の傳云 及乃下 右刀の出来振野器系家の傳云 角三ノ中車込 依もい一執同あり 依もい一執同あり

親 吉則 角

子 吉則

角三ノ中車込

清則

下之上 依もい一執同あり 依もい一執同あり

清則

角三ノ中車込 永正三年八月

御書 伯耆

この御書は、
おとよ 清則
おれ

おとよ 清則
おれ

おとよ 清則
おれ

おとよ 清則
おれ

おとよ 清則
おれ

おとよ 清則
おれ

おとよ 清則
おれ

おとよ 清則
おれ

おとよ 清則
おれ

おとよ 清則
おれ

おとよ 清則
おれ

おとよ 清則
おれ

おとよ 清則
おれ

おとよ 清則
おれ

おとよ 清則
おれ

おとよ 清則
おれ

真守 〇安守の物
また、〇也、跡と打

〇安守 〇安守の物
また、〇也、跡と打
刀と打、刃、信、天、志
兼、和、比、子、天、志
〇安守、天、志、の、比
一、の、今、〇、〇、〇、〇、〇
〇九、百、十、二、年

真徳 〇高子
時代、日

貞徳 〇高子
仁、子、以

為清 〇高子
〇高子、〇高子

為吉 〇高子

貞保 〇高子

目系 〇高子
〇高子

月系 〇高子

有包 〇高子

家安 〇高子

別耀 〇高子

一 安徳 〇高子 又、〇高子、〇高子、
〇高子、又、〇高子、乃、出、来、持、野、高、守
同、前、〇高子、〇高子、〇高子、〇高子、〇高子、
〇高子、〇高子、〇高子、〇高子、〇高子、
又、〇高子、〇高子、〇高子、〇高子、〇高子、
〇高子、〇高子、〇高子、〇高子、〇高子、

〇高子 〇高子 〇高子 〇高子 〇高子
〇高子 〇高子 〇高子 〇高子 〇高子
〇高子 〇高子 〇高子 〇高子 〇高子
〇高子 〇高子 〇高子 〇高子 〇高子
〇高子 〇高子 〇高子 〇高子 〇高子
〇高子 〇高子 〇高子 〇高子 〇高子
〇高子 〇高子 〇高子 〇高子 〇高子
〇高子 〇高子 〇高子 〇高子 〇高子
〇高子 〇高子 〇高子 〇高子 〇高子
〇高子 〇高子 〇高子 〇高子 〇高子

士女

又、〇高子、〇高子、〇高子、〇高子、〇高子

〇高子 〇高子 〇高子 〇高子 〇高子
〇高子 〇高子 〇高子 〇高子 〇高子
〇高子 〇高子 〇高子 〇高子 〇高子
〇高子 〇高子 〇高子 〇高子 〇高子
〇高子 〇高子 〇高子 〇高子 〇高子
〇高子 〇高子 〇高子 〇高子 〇高子
〇高子 〇高子 〇高子 〇高子 〇高子
〇高子 〇高子 〇高子 〇高子 〇高子
〇高子 〇高子 〇高子 〇高子 〇高子
〇高子 〇高子 〇高子 〇高子 〇高子

大原真守

各書 伯耆

物州大系不絶なり時代又と因らざるなり
又云傳は久留川ゆき元長乃は此より
去るハ天應二年三月に甲子
為清 将中主守の弟中主の横領を
大史とす

為清

守家長先づとく又是より後
相傳より天孫の力をとく
西の寺評定三人の内

一 為吉 下之上 為清の子 一条院中迄
此物等國乃任人として

一 月照 下之上 系是小所備日兼之也
さるるは後を相傳ゆき元長乃は相
傳國任人として

一 天原 下之上 系是不見は後者相傳
ゆき物等國任人として元長乃は
一 國宗 物列小鴨任人として系是外

國宗。

角二小内を疾日

切

△ 萬代國源治之令 但是は法國代
源治の國也

一 國光 下之上 後醍醐天皇乃は此より元
應乃は皇代國源治任人として相傳
真系が風情あり時代も因法中の
狂像真系は傳より員之をより忠義抄
の述述の乃傳のそよかかられとす
たるとはれあり

一 元行 河邊 一 宗光 皇代を

△ 但馬國源治之令

一 國光 下之上 後醍醐天皇乃は此より
但馬乃は傳入伝成とす号とす古秘
傳物云は他は刀居人あるはありとす
く折は長刀乃は源傳乃は元長乃はと
よりより中と一系は小より本義
三條小伝りて後乃内よりはとつちや
はるさるたとあり一系は又刀居
小丸は中切らん中とすはひち
傳中へは他はも願とすははとす
はるさるたとありは系は地とす

板目少くいはれを盛れた地を去る
 又をせやん白く刀もた力もた札
 走に丁子又乃心ありて是より札
 走陽毛多く佛乃肉のふむい
 く地乃より孫あきかあしすかけん
 へん毛を家やん出来一取字方など
 何ら物しきりあぐら湯毛の心
 くら物し又去刀の先四寸かあ
 ずかのあまう焼くは放の長刀を
 さいりく物あきりあしりてあし
 せしきくあこととと口信し又あ
 大西垂又なり同二代目乃由冬楯
 小多不札れ中しとより物方より
 法成寺

○傳佳國光

△因幡國系

一系長 因幡小振治と云因幡三
 乃之栗田口最たる九則 國々未ゆり心
 小治之仍之治 於栗田口未小記

△用防國古敷形二王系系

清真 二王三節と号 振等初因實分上
 信の打作 志の心 心 心 心 心
 信く 信く 信く 信く 信く 信く
 信安乃信の心 信く 信く 信く 信く
 信く 信く 信く 信く 信く 信く

清平 信安子仲
 信長 信平子
 清系 信系子
 及清 信系子
 信政 信政子
 信吉 信政子
 心信 信吉子
 信行 信行子

清忠 信忠子
 清信 信信子
 清信 信信子
 清信 信信子
 清信 信信子
 清信 信信子

清信 信信子
 清信 信信子
 清信 信信子
 清信 信信子
 清信 信信子
 清信 信信子

清信 信信子
 清信 信信子
 清信 信信子
 清信 信信子
 清信 信信子
 清信 信信子

一 清真 下之上 長崎川院住す。寛永三十四年
比用防必任人々々々此院系家小ね通
す。寛永三十四年八月二十六年後し可考
角ニメ肉之頃為ハ二五三ノ元組

○ 清真

一 清平 下之上 長崎川院住す。寛永三十四年
清平が子と貞徳より系家此院清平
と云々十七年後之年紀のおま可考
一 清徳 根ノ下之上 根ノ下之上
系家三ノ代

一 變清組 忠定親頭
長角

一 清組 角

孫 孫清組 角

根角ニメ肉之頃為ハ二五三ノ元組

○ 清組 角ニ肉之頃為ハ二五三ノ元組

○ 清組 角ニ肉之頃為ハ二五三ノ元組

一 清忠 角ニ肉之頃為ハ二五三ノ元組

一 清長 二玉清長 角ニ肉之頃為ハ二五三ノ元組

一 清 二玉清 忠定親頭 角ニ肉之頃為ハ二五三ノ元組

一 清春 陽州任清春作 角ニ肉之頃為ハ二五三ノ元組

一 長門國物之系家 角ニ肉之頃為ハ二五三ノ元組

△長門國物之系家

○ 根ノ下之上 長崎川院住す。寛永三十四年
比用防必任人々々々此院系家小ね通
す。寛永三十四年八月二十六年後し可考
角ニメ肉之頃為ハ二五三ノ元組

一 長門國物之系家 角ニ肉之頃為ハ二五三ノ元組

顯四

左文字子
心字子山御様

顯吉

右文字子
心字子山御様

行藏

右文字子
心字子山御様

顯長

右文字子
心字子山御様

一 取回

株肉

長州仁顯國

一 安吉

角子山御様
長州仁顯國

△ 安養國後治

弘安 下之上。後醍醐天皇御宇建
武 下之上。白糸院御宇天福法安樂
光世 下之上。白糸院御宇天福法安樂
國弘 下之上。後三条院御宇延久の
比安養國後人として、天福より百十二
年以前あり

△ 阿波國物之系

氏吉 三好義隆人左祖
房吉 氏吉子
泰吉 房吉子加
藤 藤吉子
藤 藤吉子

△ 後波國物之系

業宗 高藤三郎右衛門と号御横槍
光宗 業宗子
友利 業宗子
業宗 四利子
行利 四利子
心蓮 角子山御様

一 心蓮

角子山御様

角

阿波國物之系
百七五

金部 信濃國後

△倭國國幣治

一國吉 倭子

又服是也
与列使國吉 角

△古作國幣治

一吉光

△倭國國幣治

一國安 下之上。故既
倭國 天皇御宇

△信濃國幣治

一有常 倭國
長光吉

△越後國幣治

一信國

小肉カウ
信國 角

一國行

倭國國幣治 細く白丸りの横
と堅くふたりの程と廣くは之地と底と
く上と赤くは上と赤くは下と赤くは下と
赤くは下と赤くは下と赤くは下と

中

國行作

△九列國幣治之系必秘侯按

△倭國物之大神ハカカノアノアノ
倭國一倭板同諸國ノ一て地之系
五又又知ハ流中ノ一神ノ一ハ
大略倭國ハ流中ノ一ハ流中ノ一ハ
勢ありて之ノ一ハ流中ノ一ハ流中ノ一ハ
之ノ一ハ流中ノ一ハ流中ノ一ハ流中ノ一ハ
之ノ一ハ流中ノ一ハ流中ノ一ハ流中ノ一ハ
之ノ一ハ流中ノ一ハ流中ノ一ハ流中ノ一ハ
之ノ一ハ流中ノ一ハ流中ノ一ハ流中ノ一ハ

△飛前沖淡物之系

良西

飛前乃先祖之カカカカ
有按われ中ノ一ハ流中ノ一ハ流中ノ一ハ

西道

飛前乃先祖之カカカカ
有按われ中ノ一ハ流中ノ一ハ流中ノ一ハ

入西

西道子

友

友 倭子
世乃ハカカカ

實阿

西道子
世乃ハカカカ

女子

去流之ハカカカ
中ノ一ハ流中ノ一ハ流中ノ一ハ
之ノ一ハ流中ノ一ハ流中ノ一ハ
之ノ一ハ流中ノ一ハ流中ノ一ハ

筑前中

下

吾等之 後代は流
云安より先代は
後のより先代より
その凡半は終

安吉

吉弘の子
号元徳曆多房

吉弘

正平の

國弘

吉弘の子
史家此

成河

國弘の子
史家此

元徳より康安と
比八平宗引

女子

入西より

盛國

盛吉

吉登

盛吉の子
時代同國弘
史家此

盛康

盛吉の子
時代同國弘
史家此

安河

源平而大
昭因安穴

下打也源孫傳
阿九打孫傳傳
打之傳以之あり

出来孫二代同流
子孫ありんか
併傳於孫孫又
し切之の中又
ら

吉貞

安吉の子
一孫多孫母

吉次

吉次の子
後孫融院

永和より後小松院
明徳より之あり
何もた又之あり
併連連

貞吉

吉次の子
史家此

史家此
史家此

女子

盛吉

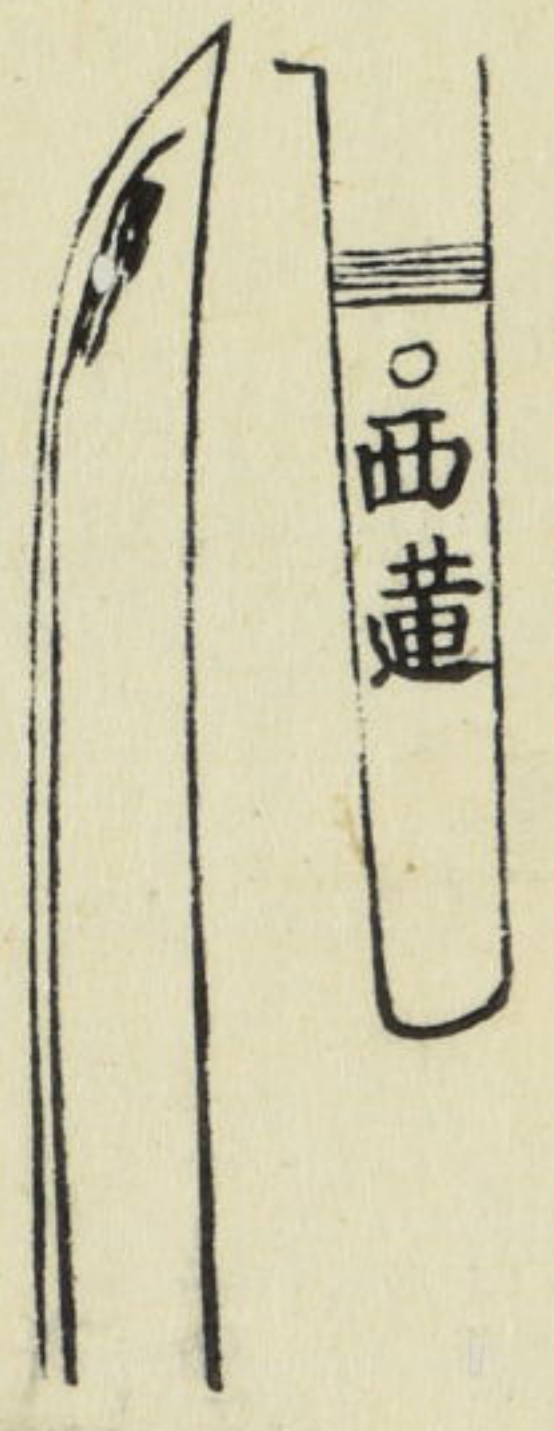
盛國孫
元亨孫

盛吉

祝無より
史家此

一 全別名是村一類は先代より史あり
制は先代より源横康元より永平より之
一 良西 下之上 流お乃之祖は源康
康元乃以流お國乃後人より之祖
是小紀年なり 流お乃西運建保
弟久乃以之記より康元は建保より西
十六年没し系是教乃乃年流
建保小列より之祖は良西より祖
て康元小より之祖は良西より祖
一 西運 中二代之祖は建保より父
乃以之より是又正流乃以之より
小お台より之可考流最博多後乃乃
乃流寸より之博廣より之乃廣より
之より丸持多より之大取極より之
おり中より之乃祖は根根同流
おり之流より之祖は根根同流
細より之乃祖は根根同流
持より之乃祖は根根同流
乃祖は根根同流
て内より之祖は根根同流
小候候所 西運より之打或は西運より

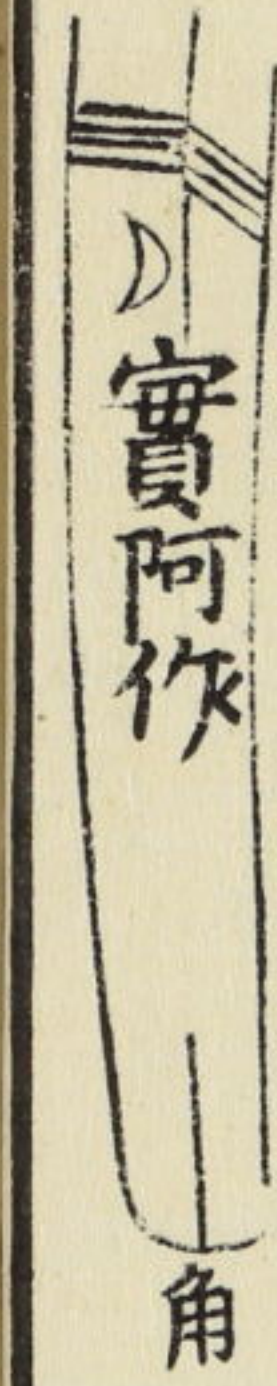
尤或ハ西蓮ヲ必吉ト計モ打
又云西蓮四吉海山院ハ永永乃以元
也ハ本立建保ノリ又十二年貞壽ノ
字十二年辰チリ



是ノリガチリノリノリノリ
角ニ定秀ノ以リ
角ニ平横下

西蓮 角

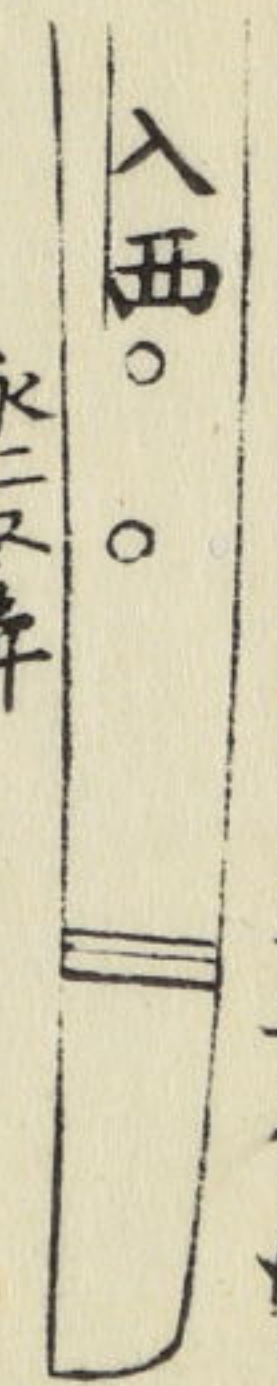
一 實阿 於下上 西蓮子之伏ノ源流
正無の以流亦國任人々々力ノ新細
く去リ給ノリ持流之根板同ノ
地之自之底亦本國乃細水肌中
細又小孔と焼くノリ又と焼く掃
く又之ニ星ノ細りあり



角ニ平横下
實阿 角

嘉慶二年十一月實阿作

入西 西蓮才之海山院
永仁の正永ノリ三十二年辰



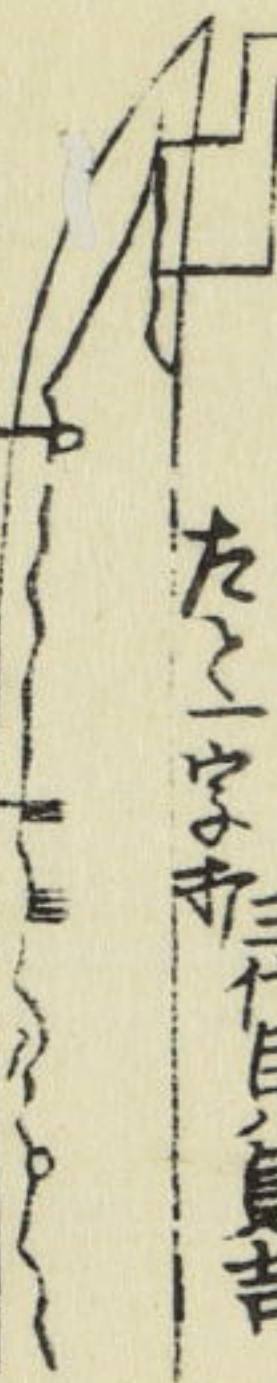
永仁二年

一 中 系果亦云正安ノリ曆無ノリ
志之又云文和の以之々々文和ハ曆無
十文年後之流亦沖浪任た者三
稱す其力乃亦之ノ廣く給ノリ
亦之切流ののざり地之星ノリ
白刃本之々々之礼又亦細ノリ
却て沸あノリ多々之礼先振又
乃之々々みざりノリ皆沸之切流の内
も礼之ガノリと之亦心小焼ノリ又之々
め之堅ノリ刀ハ在也又のノリ之々々
く之々亦及之々ノリ他之忠ハ持丸

連毒新落の帯表同黄穴乃下平小
たぐ打表小流列位と臨落中の源表
と法居の傳小云吉光の帯法は此
と

左

三代目吉吉
たぐ一字打



女にて型と施 二のうらまゝ礼うこ

一帯表のうたふ道光の他う倭三代目の
た女表と伝うにゆらきをかんうこ

筑州住源左

康永三年壬子月日

是より應永
十七年と六十
七年と

筑州住左

角小肉のり接 角小肉

左。應永十七年正月廿日

一 安吉 ヤスヨシ 又ト上 左文字が子左表の三節り号
後龍勝天皇御直守正平光朝院流う屠
意法あやまきと古刀海友まの切先を施
て唐流の板固とて落うの地を要
志て表れたる孫かやの細孔小楯物打
乃あさりな流孔小楯く又乃廣さすを
必ず乃かりまをふえぬ伝くわーハ丸
く施と細孔地と又乃肉楯入り乃
墨乃方へるの細孔地は楯入り
細孔の楯入り乃刀小を物り乃刀を
重祿厚小寸長くそをわうた他を
たハ刀の重祿落くそをどと女ひく
及るに伝うて又子乃乃るも是なりその
上たの飛えとて地をこすわとて
安吉の秘傳く乃ゆらも祖安吉もた
たぐ打は対はた乃字大にたがひ
し乃刀乃忠信の横平の連毒新落り
流の帯表同黄穴乃下に二字打表の
た安吉と打らるる

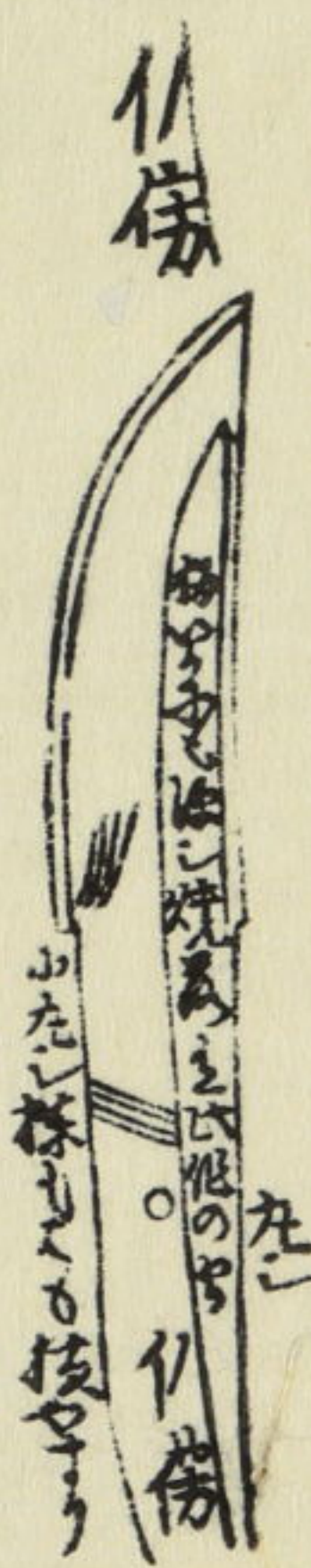
安吉



角小肉のり接 角小肉

因諷。角。角ノ内ワリノ下

守重 角ノ下ノ下
豊後。守重大勘 角



文保 二代目ノ本号打七郎
と云々ノ地ノ名

長山 中々上 系外ノ外ニ系流也

永定ノ所ニ長山ノ人後ニ系列ニ後ニ

仍高ノ下ニ上 系外ノ外。光也流

方士 紀新ニ文行平ニありノ一也

多風 日行平ニ及乃ノ一也

五平 一修定生 一高也 一子戒 傳定生ノ下 建武也

一曰宣光 一曰宣徳 一曰信國 一曰信光 皆一代版也

一平長威 下 世ノ及四富内後方乃其

△世ノ及四一代版也

一神息上 元徳天皇御宇 和州也

國ノ所ニ乃社傳と云々今元禄六年

と凡九百廿九年たり云乃乃其

但云々ありノ社傳一系傳云々一極也

好くハノ板板同いれと流ニ地也

其同ありて云々あり云々あり云々あり

其同ありて云々あり云々あり云々あり

其同ありて云々あり云々あり云々あり

一、たきまふ物より大勝梅とくみそ
 独乳乃らみ焼之刀ハ先乃又といふ
 づく焼之目極と中へをくかく
 上より忠のつととけ終終持角小
 目わり横切末み目

一、**洞池** (左衛門守国雄) 角
 角ニ小肉わり伊横下

一、**国銀作** 角
 角ニ小肉わり伊横下

一、**国吉** 角
 角ニ小肉わり伊横下

一、**国吉** 角
 角ニ小肉わり伊横下

一、**国時** 角
 角ニ小肉わり伊横下

一、**国時** 角
 角ニ小肉わり伊横下

一、**国泰** 角
 角ニ小肉わり伊横下

一、**国信** 角
 角ニ小肉わり伊横下

一、**包平** 角
 角ニ小肉わり伊横下

一、**包平** 角
 角ニ小肉わり伊横下

一、**行吉作** 角
 角ニ小肉わり伊横下

一、**時来** 角
 角ニ小肉わり伊横下

△ **肥前国物之類**

一、**典吉** 角
 角ニ小肉わり伊横下

○ 解書 肥前 下 有 廿二

角心史あり

○興太作
角心史あり

一未秀

昭州住 未秀

文明三〇年八月日

一未負

未負

未秀未負
昔々あ國一
代々あふ
あふあふ

此の石をそめてあつたあつたあつた
しつとあつたあつたあつたあつたあつた
あつたあつたあつたあつたあつたあつた

一別末

肥前國佐早原住人叔位

一則宗

弘村中

伏見院云無以肥後國住人
近壽之祖と云々。近壽國村の地住言
十九年以後の事と云々。又京來國住人

△薩摩國若山郡波平物之系

心國

振本大和國と云々。一条院直朝
乃祖と云々。永延の年又年
あつたあつたあつたあつたあつたあつた

行安

心國守子生不

行安

波平仍安打

助近

心國守子

安行

長元より

女子

安行

波平仍安

吉宗

行滿

安仍子兼

行滿

行滿子核恒

信安

核恒

行仁

行滿子核恒

波平

乃仁子波平

安光

行滿子

吉清

波平子

安俊

安光子

近安

安俊子核恒

家安

近安子核恒

友安

近安子核恒

銘書 薩摩守谷山 百廿八

安信

安信子孫傳
平定曆文治

吉宗

近安孫
核源孫

一云國下。一系院永延以是廢國故
平氏古刀崎寸長く稽のこし丸核と好
飛石目ふくさるるすこ小丸及やそく
鴉乳と焼わく焼つめおのりとりわり
地色の白く及るすこ是と云大鴨波平
の心許あり御意の紙をてよんてり
さうじよの患の横形或の細く核源孫
多し正國の盛運新株の角の許の事表
目費定の上信ふけく二字打かう後
八百五年と打又丹波に國傳す未出

南原散原

正國 ちり目

一行仁

一行仁 權中 正國子孫安より之
代仍後子之法師の建之の治き
右月乃の海寸長く及るす丸核小たり
大鴨梅とくはくは梅廣一重及焼
小丸も焼く沸流るわうくくと及
一地色の庭屋く上とくけり及る
いさめふらありさくさるるわり切先

乃月ハ重及それとも及ゆらとる同じ
やうやく焼流るらふくはくはとる
別物の上中下左の船尾さくは化と速
角ノ小肉わり流横下

一行仁

いさちるさくはわく瓜真流るは流
遠胖ノ下二并之 又天和流るは
右と名と打瓜真さくはわり
同費定の上寺瓜真六目費定の下

一行仁

一安行

視  平安行 角

二代之

親小の木

新物也

波平安行。正和二年三月
角ノ戸重遠波平子孫正國の勢

隆州住人波平安行

赤下四年

一安光

波手安光

同

。匡州谷山郡波平安光
角ニシテ並遠 元弘三年二月日

一安後 遊下上
安光子
波平安後
角ニシテ拾垣并又並遠

一近安 主下
安後子
波平近安

一安家 主下上 新依中
近安子
。薩州谷山波平草家安添郎
角ニシテ并様下 角

一安家 系外
角ニシテ并様下
波平安家 角

一安久 系外
角ニシテ并様下
波平安久 角

一利延 系外
角ニシテ并様下
利延 角

△大隅國波治 一久吉
山波國粟田口 必十信流

△若狭國波治

一信國 源之布子

若狭 津守子
信國 あつり ちんせ

△難部之分類

一真筆 級ノ剣の内丸ニ
小肉也
真筆

佛のサたまはる
本國光の肌ニ他は
やまの肌ニ他は
やまの肌ニ他は
やまの肌ニ他は

一貞清 藤原
貞清

大和保昌 の内ニ

一國行 勅。國分。

△右佐國務書系家之外或之
年代より前後未だ遠くまで其傳書
なくとも並一代船治等授牌一面寫之

△山城國分後孫

一國茂 下上。後醍醐天皇御宇元徳の
山城守任人國後守子之

一吉弘 下上。後赤松院御宇赤松家の
平安城乃任人

一國信 下上。光厳院御宇厚成山城國
後赤松院と云但忠於一愛
大和物子院と未入

一國弘 下上。後赤松院御宇赤松家の
平安城乃任人とき。又曰赤松
天福より天福より國分系家
國弘あり天福より赤松安永百三
十六年後乃り其他志可考

△大和國分 並一代船治

一 天行 下上。平城天皇御宇大同より大和
守乃船治任人

一 中光 中。伏見院御宇中興より日守
任人とき

一 上一 下上。大和國任人天武より
天武より船治任人。天武より日守
任人とき

一 行平 下上。一條院御宇永延の
日守任人

一 忠留 下上。文武天皇御宇大和
より日守任人。天武より船治
任人とき

一 忠當 下上。白河院御宇天福より
日守任人

一 光文 下上。白河院御宇天福より
日守任人

一 包四 下上。花屋院御宇天福より
日守任人。任人七帝入乃とき
一代船治

一 真福寺 下上。伏見院御宇中興より
日守任人。大和國任人真福寺
云乙元乙本所は打日守なり
美濃國未及不任して忠義と打
と忠留とより赤松院御宇赤松
傳と云乃り美濃志保系家也乃り
一代船治

一 忠別 下上。後醍醐天皇御宇元徳の
忠別

一 安清 下上。後醍醐天皇御宇元徳の
安清

一 長光 下上。後醍醐天皇御宇元徳の
長光

一 國次 下上。後醍醐天皇御宇元徳の
國次

右皆一代船治也
下 百四十一

一宗忠 長澤氏 右忠則 是三代大和
夫相之子 一代鍛冶也 其外八忠有

一元真 下上 和列之 及配 配天皇御所
武院三子 相法師と云々
相法師の傳に紀列父實系圖本

△備前國分砂流

一心恒 中 長名 藤原氏 元曆 法恒
四任人 古傳 藤原氏 一象 藤原
恒 藤原氏 元曆 百九十八年 二本

一言包 下上 長名 藤原氏 元曆 法恒
人とも云々 古傳 藤原氏 包 藤原氏
元曆 百九十八年 二本

一言包 下上 長名 藤原氏 元曆 法恒
藤原氏 元曆 百九十八年 二本

一助包 中 古傳 藤原氏 元曆 法恒
藤原氏 元曆 百九十八年 二本

一信包 下 古傳 藤原氏 元曆 法恒
藤原氏 元曆 百九十八年 二本

一刑常 下上 古傳 藤原氏 元曆 法恒
藤原氏 元曆 百九十八年 二本

一刑直 下上 時代別常二日

一光守 下上 伏見院 元曆 法恒
藤原氏 元曆 百九十八年 二本

一親次 下上 一重次 中 藤原氏 元曆 法恒
藤原氏 元曆 百九十八年 二本

一多平 中 藤原氏 元曆 法恒
藤原氏 元曆 百九十八年 二本

一延房 中 藤原氏 元曆 法恒
藤原氏 元曆 百九十八年 二本

一安則 中 藤原氏 元曆 法恒
藤原氏 元曆 百九十八年 二本

一真房 下上 藤原氏 元曆 法恒
藤原氏 元曆 百九十八年 二本

一則系 中 藤原氏 元曆 法恒
藤原氏 元曆 百九十八年 二本

一基近 下上 藤原氏 元曆 法恒
藤原氏 元曆 百九十八年 二本

年号以世系名入名花家後年号

一 壹家 下上 一 光重 下上 一 包胆 下上

一 有心 下上 一 初光 下上 下上。同比長松出光の才子と云く系也

一 有行 下上 一 重次 下上 同文保比と云く凡系而重也

一 信安 下上 右の包胆同後先代長松重次同比古信重は包助の子包助は信安の孫也

一 家安 下上 後二家院也等元は信重の孫也

一 長元 下上 一成徳 下上 同比長元は信重の孫也

一 信正 下上 後堀河院也等元は信重の孫也

一 重吉 下上 一元恒 下上 同比重吉は信重の孫也

一 久利 下上 同比久利は信重の孫也

一 永真 下上 後光厳院也等元は信重の孫也

一 重近 下上 古信重自列古重云く重近は信重の孫也

一 永包 下上 古信重自列古永包と云流也

一 宗正 下上 一 末光 下上 古信重自列古末光と云流也

一 則近 下上 一 初吉 下上 古信重自列古則近と云流也

一 弘直 下上 古信重自列古弘直と云流也

一 真宗 下上 古信重自列古真宗と云流也

一 助友 下上 一 助行 下上 一 信真 下上

一 長重 下上 一 真心 下上 一 真忠 下上

一 家忠 下上 一家俊 下上 一 重近 下上

△同四一代飛流

一 助友 一 助行 一 信真
一 長重 一 真心 一 真忠
一 家忠 一家俊 一 重近

一 助秀	一 四純	一 順真
一 秀真	一 真行	一 盛至
一 基包	一 信至	一 守宗
一 宗光	一 正光	一 家包
一 家真	一 真利	一 近則
一 吉安	一 吉宗	一 為宗
一 秀真	一 友則	一 廉言
一 久光	一 則成	一 真則
一 真短	一 四包	一 守助
一 永富	一 光宗	一 至又
一 光家	一 房則	一 真則
一 重永	一 依宗	一 家後
一 貞直	一 長元	一 則真
一 守長	一 守宗	一 信光
一 恒次	<small>為令恒次之依中二人 之系宗真則之所至</small>	一 近房
一 道至	一 信光	一 真依

一 助則	一 正則	一 感則
一 成則	一 重則	一 守家
一 長宗	一 仍次	一 仍心
一 貞家	一 忠老	一 忠助
一 為利	一 守利	<small>為利子二代同 後二人之及始</small>
一 皆近	一 長末	一 貞守
一 永助	一 秀幸	一 系久
一 末仍	一 則久	一 守友
一 久次	一 守元	一 感系
一 經家	<small>以外在代河路 二人之</small>	<small>道忠守 信同信</small>

△備中四分 孫治至一代報治

一 實次 下上。平次天白皇流字之嗣之法使中
國任人一派

一 信四 下上。投系散院直字之意承之法
國任人一派

一 久次 下上。親系院直字之文保之法使中
國任人一派

